河内長野市埋蔵文化財調査報告書 WI 野作遺跡

1992年3月

河内長野市教育委員会

序文

豊かな文化財と自然環境に恵まれた河内長野市は、他の大阪周辺都市と同様に、住宅都市に変ぼうしており、そのため宅地開発、道路整備など都市基盤整備のための開発が進められています。

このような中で、先人が長い歳月にわたって残してくれた文化遺産を保護・保存し、後世に伝えてゆくことは、現代に生きる私達の責務であります。本市においては、開発に先立ち、埋蔵文化財の発掘調査を実施し、その把握に努めています。

本書に発掘調査の成果を収録いたしました。皆様の文化財に対するご理解を 深めていただくとともに、文化財の保護・保存、研究の一助として活用してい ただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに本書作成にあたり、ご理解とご協力い ただいた関係各位に心から感謝の意を表します。

河内長野市教育委員会教育長 中 尾 謙 二

例 言

- 1. 本報告は河内長野市教育委員会がトヨタカローラ南海株式会社から調査の 依頼を受けて実施した野作遺跡の発掘調査報告書である。
- 2. 調査は、本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦・鳥羽正剛を担当者として、平成3年7月30日から着手し平成3年8月29日をもって終了した。
- 3. 本書の執筆は鳥羽正剛が行なった。
- 4. 発掘調査及び内業整理については下記の方々の協力を得た。(敬称略) 明地奈緒美・中村清美・中野雅美
- 5. 調査の実施に関しては下記の方々の協力を得た。(敬称略) トヨタカローラ南海株式会社、東洋設計株式会社 浦野巖・今西(杉山)和良・中西和子・久保八重子・村上貴美・喜多順子・ 阿部園子

目 次

序文
例言
1. 位置と環境
2. 調査に至る経過
3. 調査の結果
4. まとめ
挿 図 目 次
第1図 河内長野市遺跡分布図
第2図 野作遺跡調査地位置図
第3図 遺構配置図 4
第4図 西壁土層断面実測図 5
第 5 図 北壁土層断面実測図 6
第6図 石組遺構実測図
第7図 溝状遺構集石部分実測図 … 7
第8図 柵列遺構実測図 7
第9図 石組遺構・土坑1·P2·P3・鉄釘出土地点出土遺物実測図 8
第10図 包含層出土遺物実測図 9
表目次
第1表 河内長野市遺跡地名表 … 2
図版目次
図版1 遺構 調査区全景 (南西から)、柵列・溝状遺構全景(南西から)
図版 2 遺構 溝状遺構 (東から)、溝状遺構集石部分 (南西から)
図版3 遺構 石組遺構 (南西から)、鉄滓出土地点
図版 4 遺物 石組遺構・土坑1・P2・P3・鉄釘出土地点(1~5)、包含層(6~22)



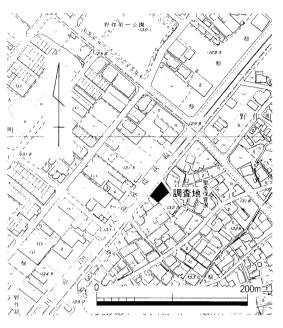
第1図 河内長野市遺跡分布図

第1表 〈河内長野市遺跡地名表〉

番号	遺跡名	時 代	番号	遺跡名	時 代
1	鳴尾遺跡	弥生時代・中世	46	加塩遺跡	古墳時代後期
2	塩谷遺跡	弥生時代~中世	47	尾崎北遺跡	古墳時代後期
3	小山田1号古墓	奈良時代	48	尾崎遺跡	古墳時代~中世
4	小山田 2 号古墓	奈良時代	49	加賀田神社遺跡	中 世
5	菱子尻遺跡	縄文時代~中世	50	ジョウノマエ遺跡	中 世
6	千代田神社遺跡	中世	51	庚申堂	中世
7	市町東遺跡	弥生時代・中世	52	栗山遺跡	中 世
8	寺ケ池遺跡	旧石器時代~縄文時代	53	寺元遺跡	奈良時代~平安時代
9	住吉元宮遺跡	中世	54	観心寺	平安時代~
10	西之山町遺跡	中世	55	延命寺	
11	野作遺跡	中世	56	川上神社遺跡	中 世
12	西代神社遺跡	中世	57	金剛寺	平安時代~
	本多藩陣屋跡	飛鳥・藤原時代・近世	58	日の谷城跡	中世
13	古野町遺跡	中世	59	汐の山城跡	中 世
14	膳所藩陣屋跡	近 世	60	峰山城跡	中 世
15	向野遺跡	縄文時代~中世	61	日野観音寺遺跡	
16	双子塚古墳伝承地	古墳時代	62	仁王山城	中世
17	五の木古墳跡	古墳時代後期	63	岩立城	中 世
18	法師塚古墳伝承地	古墳時代	64	タコラ城	中世
19	長野神社遺跡	中世	65	国見城跡	中世
20	青ケ原神社遺跡	中世	66	稲荷山城跡	中世
21	長池窯跡群	平安時代~近世	67	旗蔵城跡	中世
22	伝「仲哀廟		68	大江家	申世
23	上原近世瓦窯	江戸時代	69	石仏城跡	中世
24	上原北遺跡	,,	70	左近城跡	中世
25	上原中遺跡	古墳時代・中世	71	清水遺跡	中世
26	塚穴古墳・上原遺跡	古墳時代後期~中世	72	薬師寺	, –
27	大日寺遺跡	中世	73	千早口駅南遺跡	中世
28	河合寺城跡	中世	74	地蔵寺	近 世
	末広窯跡	中世	75	旗尾城跡	中世
29	河合寺	中世~	76	葛城第18経塚	近 世
30	福田家	近世	77	天見駅北方遺跡	中世
31	烏帽子形古墳	古墳時代後期	78	葛城第17経塚	近 世
	烏帽子形城跡	中世~近世	79	薬師堂跡	中世
	烏帽子形八幡宮	中世	80	流谷八幡神社遺跡	中世
32	喜多町遺跡	縄文時代~中世	81	小野塚	
33	上田町遺跡	古墳時代	82	蟹井淵北遺跡	中世
34	上田町窯跡	近 世	83	蟹井淵神社遺跡	中世
35	大師山遺跡	弥生時代後期~	84	蟹井淵南遺跡	中世
	大師山古墳	古墳時代前期	85	清水阿弥陀堂跡	近世
36	大師山南古墳	古墳時代後期	86	権現城跡	中世
37	高向遺跡・高向南遺跡	縄文時代~中世	87	滝畑埋墓	近世
38	高向神社遺跡	中世	88	堂村地蔵堂跡	近世
39	惣持寺跡	中世	89	天神社遺跡	中世
40	野間里遺跡	奈良時代~平安時代	90	中村阿弥陀堂跡	近世
41	宮山遺跡	縄文時代~平安時代	91	西の村阿弥陀堂跡	近世
42	宮山古墳	古墳時代後期	92	東の村観音堂跡	近世
43	高木遺跡	縄文時代	93	光滝寺	中世~
44	三日市遺跡	旧石器時代~近世	94	葛城第15経塚	近世
45	小塩遺跡	縄文時代~奈良時代	95	岩湧寺	中世~

1. 位置と環境

当遺跡は、河内長野市野作町733番地1他に所在する遺跡である。遺跡は、石川の左岸に広がる中位段丘上に位置し、標高131mを測る。遺跡の半径10㎞以内の主な遺跡には、旧石器時代から縄文時代にかけての寺ケ池遺跡が北方にあり、古墳時代には南西に塚穴古墳、南東には烏帽子形古墳があり、中世には南東に烏帽子形八幡宮・長野神社遺跡、東北には古野町遺跡があり、近世は本多藩陣屋跡・膳所藩陣屋跡などがある。



第2図 野作遺跡調査地位置図 (1/5000)

2. 調査に至る経過

当遺跡は、当該地に開発の計画があり、原因者の届出により平成3年7月9日に試掘調査を実施した結果、新規に発見されたものである。遺跡名は、地名にもとづいて野作遺跡とした。遺跡発見後、原因者との協議の結果、平成3年7月29日に覚書を締結し、発掘調査を300㎡について同年7月30日から同年8月29日まで実施した。

3. 調査の結果

遺構面は、現地表から、撹乱土の表土(層厚20 cm)、耕土(同5 cm)、床土(同5 cm)、ついで灰白色粘土(同5 cm)、褐色粘土(同5 cm)の順に除去すると検出された。

遺構

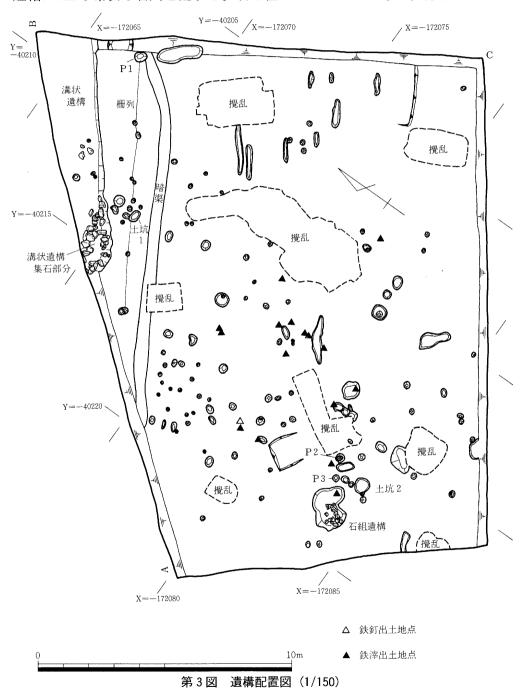
検出された遺構は、石組遺構1、溝状遺構1、柵列遺構1、土坑数基、ピッ

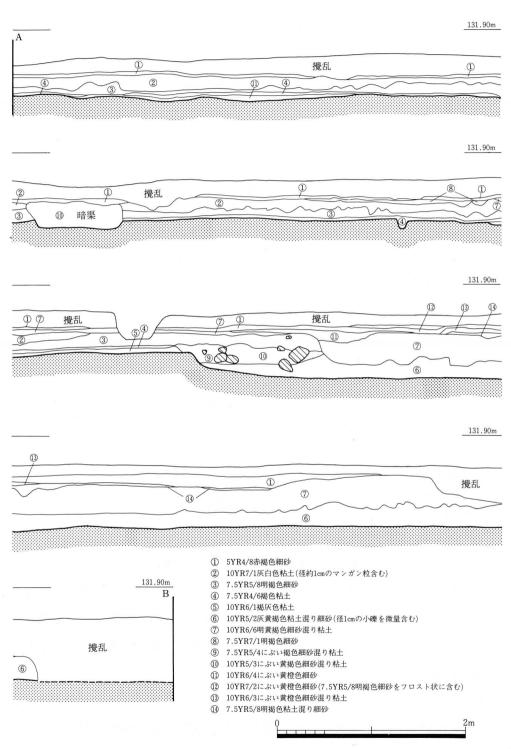
— 3 —

トが多数であった。

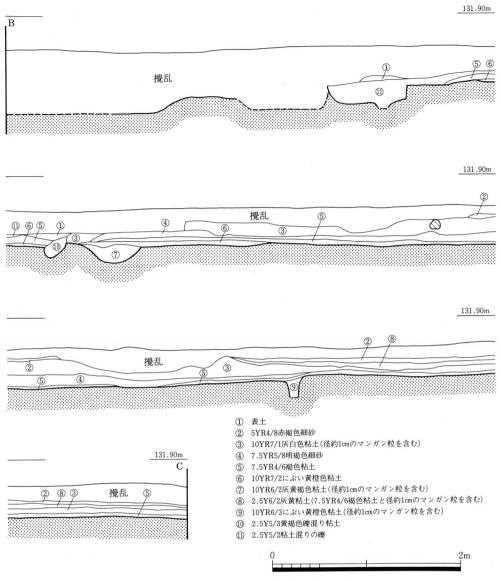
〈石組遺構〉

調査区の南端に位置し、規模は長軸1.5m、短軸1.4mで、内部に長軸0.9m、短軸0.5mの環状の石列を配する。石の径は $0.1\sim0.2$ mである。深さは、石列





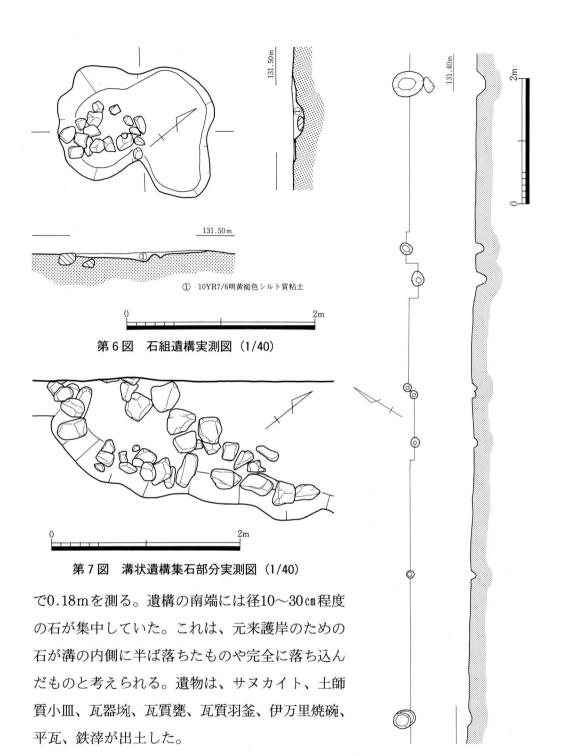
第4図 西壁土層断面実測図(1/40)



第5図 北壁土層断面実測図(1/40)

の最深部で0.14m、石列の周囲最深部で0.07mを計る。埋土は、多量の鉄分を含むため明黄褐色を呈していた。遺構内の石列や埋土には火を受けた痕跡が検出されないので、炉の可能性は低い。遺物は、鉄釘(3)と鉄滓が出土した。〈溝状遺構〉

溝としての対になる肩部を調査区内では確認できないが、その規模と形状から溝の可能性が高い。位置的には、調査区の北隅を走る。検出された長さは、10.1mで、同じく検出された幅は、2.4mである。深さは、北端で0.1m、南端



〈柵列遺構〉

第8図 柵列遺構実測図(1/60)

柵列遺構は、溝状遺構の南に位置し、 $N-58^{\circ}-E$ に走り、検出された長さは10mを測る。構成するピットの規模は、P1が長軸0.5m、短軸0.4m、深さ

0.15mと、平面上南西に連続するピットと規模を隔する。連続するピットはほぼ円形を呈し、規模は、40.120.25m、深さが0.050.18mを測る。中間の距離は0.20.23mを測る。上述の溝状遺構に沿うプランをもつが、土層観察から同時期の遺構ではなく、先行するものと判明した。遺物は、出土しなかった。〈土坑 1〉

□列遺構の列上に位置するが、土層観察から構成に属さないと考えられる。 規模は、長軸0.5m、短軸0.32m、深さ0.04m測る。遺物は、土師器、瓦器埦、 鉄製小刀(4)が出土した。

〈土坑2〉

P2の南0.6mに位置する。平面形は、不整形な円形を呈し、径0.6m、深さ0.04mを測る。遺物は、陶磁器が出土した。

<P2>

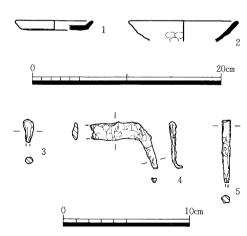
調査区の中央部より南に位置し、規模は、長軸0.34m、短軸0.24m、深さ0.3mを測る。遺物は、瓦器小皿(1)、鉄滓が出土した。

<P3>

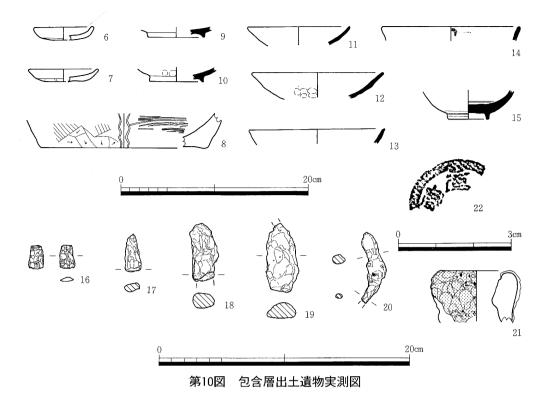
P2の南西に位置する。平面形は、不整形な円形を呈し、規模は、径0.26m、深さ0.27mを測る。遺物は、土師器、瓦器埦(2)、鉄滓が出土した。 遺物

遺物は、サヌカイト、石鏃、瓦器小皿、 瓦器境、土師質小皿、土師質甕、青磁碗、 伊万里焼碗、平瓦、鞴羽口、鉄滓、鉄釘、 鉄製小刀の他、不明鉄製品が出土したが、 包含層からのものが大半を占め、土器に ついては、実測に耐えるものが僅少であっ た。遺物と土層から、溝状遺構と土坑 2 が近世の遺構であるのを除き、それ以外 は中世の遺構であることが確認できた。

遺構に伴う遺物の量は、少なく、殆ど が細片であったため、実測できたものは、



第9図 石組遺構・土坑1・P2・P3・ 鉄釘出土地点出土遺物実測図



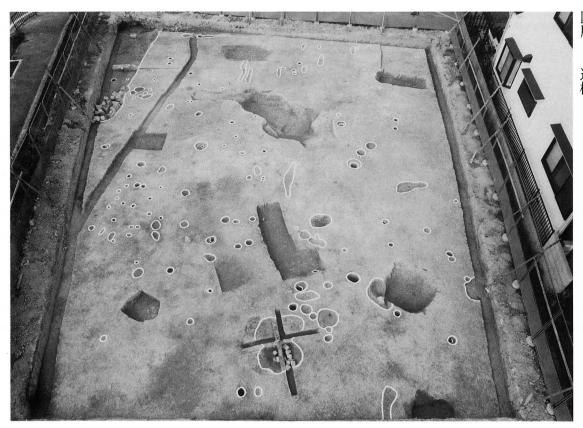
僅かであった。遺構からは($1\sim5$)が出土し、包含層からは($6\sim21$)が出土した。(1)はP2から出土した瓦器小皿。(2)はP3から出土した。($3\cdot5$)は鉄釘で、(3)は石組遺構から、(5)は第3図上 \triangle 地点から出土した。(4)は先端を欠くが小刀と考えられる。包含層からの出土遺物は、($6\cdot7$)が土師質小皿、(8)が土師質甕底部、($9\cdot10$)は瓦器焼高台で、($11\cdot12\cdot13$)は瓦器焼である。(14)は青磁碗口縁部で、(15)は伊万里焼碗高台である。いずれも細片であるため、法量や調整が明らかでない。($17\sim20$)は不明鉄製品で、(21)は鉄滓出土地点直上から出土した鞴羽口である。先端から外表面にかけては、鉄滓が付着しており、断面中芯部は黒変している。(22)は元豊通寳(鋳造年代15世紀以後)で、(16)はサヌカイト製石鏃である。

4. まとめ

調査の結果、遺構の時期は、主に中世のもので構成されることが判明した。中世には調査地が、鞴羽口や鉄滓の出土により、金属工業に関わる作業場であ

ることが判明した。しかし、作業に従事していたであろう大鍛冶師、小鍛冶師、 鋳物師などの職人と精錬、鍛練、鋳鉄などの作業内容は、いずれも特定できない。またいずれの作業場にしても鉄に関わることから、温度、湿度、錆などの 諸問題を配慮したことが予想され、露天においての作業場は考え難い。しかし、 調査区内のピットから建物は、検出されなかった。出土遺物に数点の鉄製品が みられたが、調査地における生産物であるかは不明である。

図 版



調査区全景 (南西から)



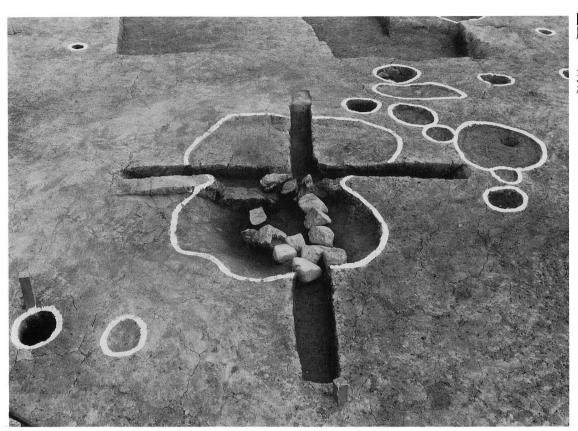
柵列・溝状遺構全景 (南西から)



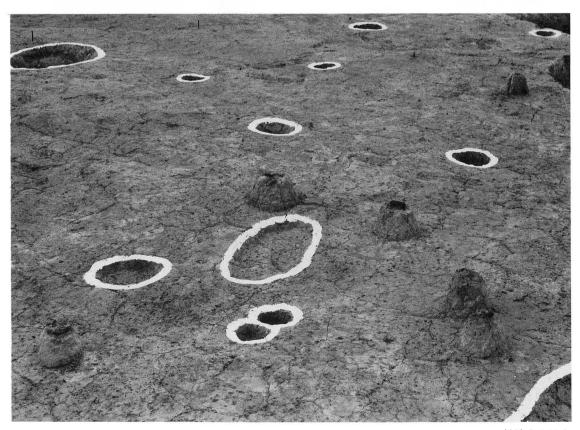
溝状遺構全景 (東から)



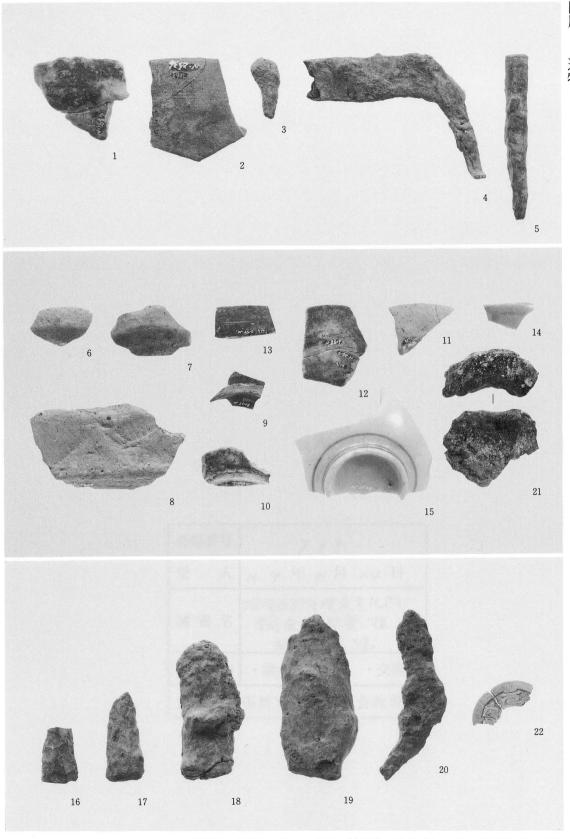
溝状遺構集石部分(南西から)



石組遺構 (南西から)



鉄滓出土地点



石組遺構・土坑 1 ・ P 2 ・ P 3 ・鉄釘出土地点 $(1 \sim 5)$ 、包含層 $(6 \sim 22)$

登録番号	738
受 人	14. 牙年 4月 24日
図書名	河内长野市埋成文化政 調查報告書 亚野 作道路
入手方法	・購入・寄贈・交換
河内長野	市教育委員会社会教育課

